



『ききゅうにのったこねこ』

マーガレット・ワイズ・ブラウン/さく

レナード・ワイズガード/え 長崎出版 2011 年

ねずみに追いかけてばかりのこねこ。ある日「ねずみのいないところにいこう」と決心して、ききゅうに飛び乗ります。

こねこがききゅうに乗って旅する中で出会うものや見聞きする出来事。「現実から少し距離を置いてどこか遠くに行けたらな」という気持ちは、主人公のこねこに限らず、私たちが多少は持ち合わせているのではないのでしょうか。

たどり着いた場所が、必ずしも美しいものばかりではないかもしれませんが、旅の思い出はいつになっても記憶として心に残るものです。

休館日のお知らせ

10 月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

11 月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

※○の付いている日が休館日です。 ※土日祝日は午後5時までの開館です。

とこぶん通信

2024

10-11

イベント掲示板

10 月

映画会

こども映画会 11 時～ (10 時 45 分開場)

10/20(日) 『アイ・ラブ・スヌーピー』

10/27(日) 『ぼくは王さま たまごめいたんてい』

市民映画会 14 時～ (13 時 30 分開場)

10/20(日) 『エンジェルス』

10/27(日) 『続・深夜食堂』



おはなし会

10/5(土) 10/19(土)

親子おはなし会

10/25(金)

図書館まつり

スペシャル映画会

11/9 (土) 14:00

『裸の大將』

11 月

映画会

こども映画会 11 時～ (10 時 45 分開場)

11/10(日) 『かばのポトマス』

11/17(日) 『日本の昔話 ぶんぶく茶釜ほか』

市民映画会 14 時～ (13 時 30 分開場)

11/10(日) 『幌馬車』

11/17(日) 『海よりもまだ深く』

おはなし会

11/2(土) 11/16(土)

親子おはなし会

11/22(金)



※おはなし会はいずれも 10 時 30 分から開始

※映画会は当日先着順です。満員時は入場できません。

10月・11月のイベント

とこぶん健康講座

ゴムバンドを使って体のゆがみをなおそう！

日時:10月4日(金)10:30~11:30(開場:10:20)

場所:所沢分館1階多目的会議室

講師:福村早苗(管理栄養士・カイロプラクター)

参加費:無料

定員:12名

対象:18歳以上

申込:9月21日(土)9:30より受付開始

お電話又は所沢分館カウンターにて受付いたします。定員に達し次第、お申込みを終了とさせていただきます。



場所:2階一般書展示コーナー付近

「本のまくら」10月22日(火)~11月8日(金)

「ほんのまくら」とは2012年に書店で始まったイベントです。

本の最初の一文を印刷したブックカバーをかけ、中身が見えない状態で、本を選びます。読書週間を含む上記期間に、1日7冊限定で実施いたします。

22日~31日は職員おすすめ本、1日~8日は利用者のおすすめ本を展示する予定です。新たな本との出会いにご活用ください。

「リサイクルブック市」11月9日(土)・10日(日)

除籍になった本や雑誌などを無料配布いたします！



『河童の手のうち幕の内』
妹尾河童／著 講談社

『河童の手のうち幕の内』

妹尾河童／著

講談社 1992年

『河童が覗いた〜』『少年H』等が有名な著者ですが、初めてエッセイを読んだ時に緻密なイラストと視点の面白さにぐいぐい引き込まれたものでした。一体この御仁はナニモノだろうかとも思いました。その疑問の答えがアレコレと明かされています。同氏の著作の入り口としても、種明かしとしてもおすすめの一冊だと思います。

刊行からかなり経過しているため、現在では失われてしまった題材もありますが、往時の記録が書籍に残されたことは、幸せなことかもしれません。

推し本

とこぶんスタッフ選

『食べる西洋美術史』

「最後の晩餐」から読む』

宮下規久朗／著 光文社未来ライブラリー

2024年

ダヴィンチの名画「最後の晩餐」を始めとして、西洋絵画において「食事」や「食物」がどのような意味で描かれてきたか。

例えば、パンやワイン、魚や肉などその一つ一つがキリスト教的記号であり、あえて饗宴を描き「大食」という大罪をいさめる一方で、常に貧困に苦しんでいた人々の満足ゆくまで食べたいという欲望を表している。100点以上の名画とともに著者の独自の視点から読み解き、ウォーホルの「最後の晩餐」で締めくくられる。食欲の秋。芸術の秋。秋を貪欲に満喫したい人にはぜひ読んでいただきたい。



『食べる西洋美術史「最後の晩餐」から読む』 宮下規久朗／著
光文社未来ライブラリー